

コース名	科目名		対象学年
臨床医学	検査診断・輸血		4
開講学期	科目責任者	副責任者	全体資料
2学期	通山 薫	畠 二郎	有

授業到達目標

- 1) 臨床検査の意義を理解し、基準値・基準範囲・カットオフ値の意味を説明できる。
- 2) 検査の誤差や生理的変動を説明できる。
- 3) 正しい検体採取の方法を説明でき、不適切な採取を行ったときの検査異常値を判断できる。
- 4) 検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、予測値、尤度比）を理解・説明できる。
- 5) 以下の各検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
  - ・ 尿、便、髄液の各検査
  - ・ 血液学検査
  - ・ 生化学検査
  - ・ 免疫学検査
  - ・ 酸・塩基平衡、動脈血ガス分析
  - ・ 特殊検査（フローサイトメトリー、染色体・遺伝子検査）
- 6) 細菌の塗抹・培養検査の目的・適応を説明し、結果を解釈できる。
- 7) 腹部超音波検査の基本を理解する。
- 8) 血液型の基本事項を理解し、輸血の適応と合併症を説明できる。
- 9) 交差適合試験を説明できる。
- 10) 血液製剤の種類と適応を理解し、同種輸血、自己輸血、成分輸血と交換輸血を説明できる。
- 11) 造血幹細胞移植の適応、方法、予後と合併症への対応を説明できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	9/ 2	月	2	講義	通山	検査診断 (病態)	検査の基礎 I (検査の意義)	F-2-3)-1, F-2-3)-3 F-2-3)-7
2	9/ 2	月	3	講義	通山	検査診断 (病態)	検査の基礎 II (検査特性、検体の採取と保存)	F-2-3)-2, F-2-3)-4 F-2-3)-5
3	9/ 4	水	4	講義	通山	検査診断 (病態)	一般検査	F-2-3)-8, F-2-3)-15
4	9/ 4	水	5	講義	畠	検査診断 (内・超)	生化学検査 I (肝・胆道系)	F-2-3)-8
5	9/ 9	月	4	講義	畠	検査診断 (内・超)	生化学検査 II (肝・胆道系・膵)	F-2-3)-8
6	9/ 9	月	5	講義	末盛	検査診断 (病態)	血液学検査 I (血算、血液像)	D-1-1)-7, D-1-2)-1 F-2-3)-8
7	9/17	火	3	講義	末盛	検査診断 (病態)	血液学検査 II (骨髓像)	D-1-2)-2, F-2-3)-8
8	9/18	水	4	講義	辻岡	検査診断 (病態)	血液学検査 III (凝固系)	D-1-1)-8, F-2-3)-8
9	9/18	水	5	講義	近藤英	血内	血液型 I (赤血球の血液型)	F-2-13)-2
10	9/25	水	4	講義	畠	検査診断 (内・超)	生化学検査 III (腎機能)	F-2-3)-8
11	9/25	水	5	講義	畠	検査診断 (内・超)	生化学検査 IV (電解質・酸塩基平衡・動脈血ガス分析)	F-2-3)-8, F-2-3)-14
12	9/25	水	6	講義	北中	検査診断 (病態)	免疫学検査 I (免疫学検査の基礎) 先端的な研究の紹介として、キメラ抗原受容体 (CAR) について解説する	C-3-2), D-1-1)-5 F-2-3)-11
13	9/26	木	1	講義	北中	検査診断 (病態)	免疫学検査 II (アレルギーと自己抗体)	C-3-2)-(4)-4, D-3-2)-2 E-4-1)-1
14	9/26	木	2	講義	畠	検査診断 (内・超)	生化学検査 V (内分泌学・代謝検査)	F-2-3)-8
15	9/30	月	3	講義	辻岡	検査診断 (病態)	フローサイトメトリー	F-2-3)-10
16	9/30	月	4	講義	畠	検査診断 (内・超)	腹部超音波診断	F-2-7)-3

17	10/ 2	水	1	講義	通山	検査診断 (病態)	染色体・遺伝子検査 先端的な研究の紹介として、次世代シーケンシングについて簡単に解説する	F-2-3)-9
18	10/ 2	水	2	講義	辻岡	検査診断 (病態)	感染症検査	F-2-3)-13
19	10/ 3	木	1	講義	近藤英	血内	血液型 II (白血球・血小板の血液型)	F-2-13)-6
20	10/ 3	木	2	講義	近藤英	血内	輸血検査 (血液型判定、交差適合試験)	F-2-13)-2
21	10/ 4	金	4	講義	近藤英	血内	輸血の適応・適正使用	F-2-13)-1, F-2-13)-4
22	10/ 7	月	3	講義	近藤英	血内	輸血副作用	F-2-13)-3
23	10/ 7	月	4	講義	近藤英	血内	造血幹細胞移植	F-2-13)-5, F-2-13)-6 F-2-13)-7
<b>評価方法</b>								
[期末試験]100% (60 点以上を合格とする。)								
[評価方法] 多肢選択試験、論述・記述試験								
[備考] 出席日数が規定に満たない者は定期試験を受験できない。								
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて</b>								
直後のフィードバックは予定していないが、4 年生 2 学期後半におこなう臨床実習入門の検査部実習において、補完的な講義や見学、体験実習を通して臨床検査医学への理解を促進する。								
<b>教科書</b>								
ISBN-9784260016001, 標準臨床検査医学 第 4 版 (Standard textbook), 高木 康 (編集), 医学書院, 2013/01/11 その他: 全体資料を活用する。								
<b>参考書</b>								
(特になし)								
<b>準備学習 (予習・復習等)</b>								
予習: 短時間でもよいので教科書と全体資料をあらかじめ見ておくと、授業中の理解度が大きく向上するはず。 復習: 授業の記憶が新しいうちに 30 分程度をかけて、全体資料でとくに講義中マークした箇所等重要部分を再度確認しておくこと。								
<b>講義についての注意事項</b>								
内容は膨大であるが、講義に集中してできるだけ講義時間内に習得するよう心掛けること。質問は随時歓迎する。								
<b>昨年度からの変更点・改善項目</b>								
全体資料のさらなる充実化を図る。講義時間内にレノンシステムを活用する。								
<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について</b>								
臨床検査を正しく理解し活用できることは、専門的な医学知識と医療技術を修得するという卒業時到達目標の重要部分であり、現代医学・医療の実践における根幹である。								
<b>ナンバリング</b>								
DLLT412								